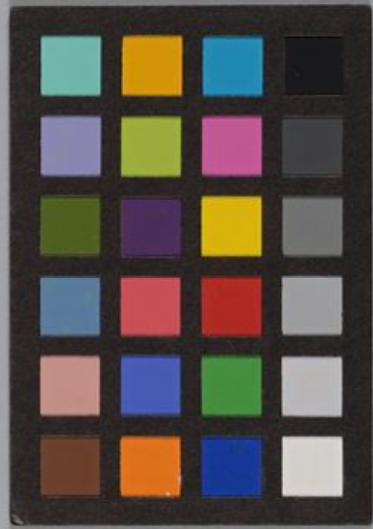


和歌古語深秘抄

八雲一言記  
和歌二行集  
同用表  
十

NO 940.  
10.



和歌古語深秘抄 十

都留文科大学附属図書館所蔵







一古号之詞ありとを混俗平懐さうむといふ也  
孫就中初んも位殊可勇持者也

一誦歌号の時歌のほろれ若木樹をまわて歌好く  
あて誦く私云庚申秋合よ佐宮誦云

善天納涼

とくしとくやとくむとくぬいとくさ

玉ぬふとくさか好ふくれ名を

判詞を暮天納涼に初奈落出仕たに見苦涼可  
勢居ぬけ相分て傍歌向後可有減少たを推  
糸粒と亭性く云とぬ此ぬと歌世の思之

一歌歌歌を花月三よ世さうくとりさうさ  
珍あり不悉者歌歌とくと不伊ふいよのつひる花月  
号ぬとんゆふま乃つてらふありそれいあさ  
事ありされとくは文をやとくふけとくと  
了誦云と

一尤京大連入道寐西俗名状云

此现存六帖仙洞十首の号合乃人々の誦歌入之  
而勝号之不入多ハ負号也け糸雨葉とたる櫻  
殊傍よ是也

御報云



付糸の布之改身也布守むる將猶ほ吾合之此依  
る能操事不見勝負之極只誰人々係と字及  
許ヲ所撰入也凡新古今ニありぬらうりは秋風そ  
あくと云吾をそ基後依れ共負と判らるる然る  
後撰裁と云

重状云

新古今之生罷未知之是又誰をくぬをそそ  
括中納を入道も稱し由彼諸キ何様と難らうと  
其人判らる後吾負裁云

所報云

或ハかゝのよきとてうとむる人々をくありとあり  
とを難し或はちりぬらうりに吹とみそそおち  
をうらうりやそし不然去年ニ并風と云云  
らと難しとあり云

新古今秋下云

は惟古入道お國白大政大臣家致合ニ

前条後記陸

うつらうらかゝのおそとてうらうらみち  
らぬらうりそしあき風せし

此云乃事也



仙洞抄の合ハお藤亞相為審判者也

一忠見ハ忠器乃男也まづくもくもみくもみくも  
 と天使田裏吾合よこくもくも忠器とつひ志の  
 子ぬりぬりつてて款もせらるるこころも  
 ありとまづつひの好もまづお橋列は華なりて信は  
 中まねえや一のむせられと彼由吾合の款つ  
 まづりまづまづつて天上の腰まよなりまよへ  
 作られぬりまづりまづりまづれを哥よらん  
 いそまゝなりたるこころ申あまのりまづれは  
 かみなりぬりまづりまづりまづり人のあ

まづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり  
 てまづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり

一実伴大傳お大納言 佐平云息者まづりまづり失款仙也人まづりまづり  
 ぬりまづりまづり世乃秀とつとれハ一まづりまづりまづり  
 んぬまづりまづり可強まづりまづりありまづりまづり  
 借てよまづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり  
 ぬりまづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり  
 一仙洞抄の合ハ後成御女強也

幸不遇也

まづりまづりまづりまづりまづりまづりまづり



少くもとあるぬみちりて入る家

彼は吾合ふ此は吾縁なり

ちりりまゆといつて自ら上古至古世帯仙強多末  
詠之詞也云々 けはるる當代より不殺賞

後を相院時撰る合ふ十首之内終一首を撰  
る彼は負ふ云々 秀能の六首故西園寺のお玉禪門の三  
首云々 不依人云々 甲後任云々 後劣末代也此  
後を云々 勿論也

一茶集末文字は云々 有無事也

ソラツク  
天の月日

は夜字ゆくと夜事不見とお義云云 かつゆく同事云

思那云云 家をり云々 家をり云々 家をり云々

ありくをり云々 ありくをり云々 ありくをり云々

よ不お叶死

吾は南別所見者實云還ぬ之儀餘別よの

そありし時何ぞ此義哉

向<sup>カタシカ</sup>峯<sup>カミ</sup> 片<sup>カタ</sup>畧<sup>リョク</sup>

むくありきさるるおかしきことなりんてや

當<sup>トコ</sup>片<sup>カタ</sup>畧<sup>リョク</sup>

向<sup>カタシカ</sup>南<sup>ミナミ</sup>山<sup>ヤマ</sup> 小<sup>コ</sup>心<sup>シン</sup>



くは文不明歟

白水部 海人より多事也

節 人偏也 桂茶海到白ありゆん

白風 秋風より涼風とととより

以四色對四季之時秋是白也之仍此也めと素

秋未也

鷓鴣 曉也

只又其後詳

秋綿 空也

亦何也めけ書よりと心不空 至之

愚推云亦ふとてわるとく似綿とある

獨數 片意也

か〜と〜といひたり寝るる時ま〜ひに〜と〜と

うら〜と〜と〜と〜と〜と仍用獨字也

何時

其心空也

竹 吟

空事歎之 愚云止觀七卷より才モ口とと後也

と〜と〜と〜と〜と

杜 右 諸手 目上



下方乃初はまてとらふまゝに彼らあかきとありて  
てとらふ事なり仍或云左右或事法にてまゝに  
少く強し

四格山

四山とらふ事とまゝに海とらふ事と海典中

まゝに

愚言云と也教皇舎城云嵩山モリスラテ四周る外廓と

海史

意詳

鄭 海史

は信極事ゆゑに人陸死官者法入ふとらふ  
死此世に外束集得

少くは

一 款証とらふ極を三待はつゝとらふとらふ也空待とらふ  
事とらふとらふ中へあゝと事也とらふ我らとらふ  
おもひつゝとらふとらふ也下つゝとらふは是也能待とらふ  
自力系集とらふ勅撰代との撰家との集口信難也  
多分のと眼よあゝとらふはとらふとらふとらふとらふ  
あゝとらふとらふとらふとらふ人是なりけり能二待とらふ  
とらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふとらふ

Natural

二







和言集

謹和言所の人の清中へ

御儀多ふ致有るを承りて  
そや先達の修らるる御言  
下り集あはれを承りて  
代りあり御中御言を承りて  
しりあり御言を承りて



















るしやと乃事紫よんけそちんまらる  
まらるー水松くーひつととと  
ぬきまらる家かよひつひ乃あそみらひ  
まや古乃くーと名勢まらるる那  
ぬやらとぬれちりよまらるあそすれ  
そのむつまーと我てはつあね  
うまらら乃そつぬとすくぬまらるの  
ー若りまらるるぬあまらるれ  
まらる白のまらるぬのまらるまらる  
まらるまらるかまらるーまらるぬまらる

本てあつらるる物まらるてまらるるこれ  
ひつとららるとすくまらるるまらる  
あつらるるまらる月乃日成つとらる  
あつらるるまらるぬまらるまらるぬ  
まらるの面れ昔世のまらるるまらるる  
まらるるまらるまらるまらるまらる花  
まらるるまらる田中のみらるるまらるる  
まらるるまらるまらるまらるまらる  
まらるる乃まらるる竹まらるまらるる  
まらるるまらるまらるまらるまらるる



うらうらうらふかきもせう草花うまひか  
 啼く一息くまふ夕々あちのこ  
 むくらねふ門を本枝よふとちうれ  
 人もさう一こぬたさうくまこと  
 夕々終まきつらぬ世やのなうら  
 いとふまきつりをたさきふふれ  
 拂はむあれさうまぬちなくを  
 をら、けうま乃玉さうまうま  
 けうひの松のまひ枝まじうれ若  
 らみねりわらふあさうにまきり

花乃まをわうとあめていけあさぬ  
 いさくもさうらねりさあさん  
 誰かく井さう、心回あ海さう、これ  
 筒苗さう、ねいさう、まきり  
 まさう、いさう、あさう、れ、ね乃、めり  
 うさ、海乃、ら、な、を、く、ま、あ、回、さ、あ、ま、い  
 春まきり、いさ、む、さ、さ、さ、う、と、序、の  
 松乃、く、と、ま、さ、う、ら、な、さ、う、ま、き、り  
 あ、さ、う、わ、す、ね、う、さ、う、ま、き、り、さ、う、ま、き、り  
 ま、さ、う、ま、き、り、さ、う、ま、き、り、さ、う、ま、き、り























けりてあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 ることやらん世れも西行上人後醍醐天皇の縁  
 長をえんはくを秘めくよまれさるることありしに  
 乃こいまりまゝいひく人の御事なればいふよ  
 く依りてあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 のあき乃神あはれしくあはれはくは西行法師と  
 りよんおあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 ともうくさけ見神えくよきとんすのそを詞にも中  
 依りてあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 へ御事なればいふよ人の御事なればいふよ

就中西行の神あはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 しりて世よあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 とんすのそを詞にも中  
 らぬまゝのそを詞にも中  
 乃西風神あはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 二極兼なるはくを秘めくよまれさるることありしに  
 入し一極よけあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 かきし一極よけあはれしくよきとんすのそを詞にも中  
 決るるもとんすのそを詞にも中























一 草子和舞所進羅一帖業也何勇捨之合点之和  
 須をいむ申は右人達の事也いふに一日我あ  
 まし指入る事いふにいふにいふにいふにいふに  
 ろれ我の心もあはれいふにいふにいふにいふに  
 是つりいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 是つと師といふにいふにいふにいふにいふに  
 一 我我をいふにいふにいふにいふにいふに

て今日の新張の仕舞を法回らる人更初を  
 一 草子和舞所進羅一帖業也何勇捨之合点之和

一 草子和舞所進羅一帖業也何勇捨之合点之和  
 須をいむ申は右人達の事也いふに一日我あ  
 まし指入る事いふにいふにいふにいふにいふに  
 ろれ我の心もあはれいふにいふにいふにいふに  
 是つりいふにいふにいふにいふにいふにいふに  
 是つと師といふにいふにいふにいふにいふに  
 一 我我をいふにいふにいふにいふにいふに



















夙辨不徒在身遠字依故存載之  
同題を真觀房詩心款

さ〜ぬきふあ〜うほじん深し澄よ  
は〜せきゆ〜のありは〜

孝字の〜又〜難お〜を〜ひ〜ん  
類字を〜めけ可あを又〜よ乃上の字あを此  
邊乃ま野糸の外ま字在申の中此まあは  
字ま〜れ移をま〜り但野徑乃徑の字山路の  
路のま〜ま〜る〜あ〜ゆるま〜りあ〜ん  
く〜めり

野徑月

後系抄

お〜ま〜ま〜ま〜ま〜のむ〜あ乃  
まの〜〜〜の〜あ月〜

同一歌を

私家御

む〜あ〜ゆ〜ま〜ら〜ま〜り〜り  
こ〜ひ〜ま〜は〜ふ〜れ〜る〜月

山路花

故禪門

み〜乃〜る〜る〜の〜あ〜ら〜れ〜  
〜の〜ま〜あ〜志〜乃〜人

徑字路字依之可心得也



一文字の教あらん歌ををよ下にまゝくゝるゝ一不  
 にならぬほほゝゝあまのこゝろゝゝあまのこゝろゝゝ又題  
 のやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 然而後言ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 見花月とゆゝん歌ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 物乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 一強花岸の歌かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 かくあゝ歌を早苗ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃歌と能くんぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 物語のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 歌もあゝ合に直まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ねのゝゝゝゝゝゝゝ

一平歌とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 下ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 寝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 新ゝゝゝゝゝゝゝ故律門齋歌をを

寝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ







人々皆て其の如く  
おぼしめされしは

只今覺悟するに  
ははらうとて  
は故禪門倒る  
來と判口

ちくく孫を  
おぼしめされしは

おぼしめされしは

おぼしめされしは

郭云

おぼしめされしは

女舞

おぼしめされしは

おぼしめされしは

おぼしめされしは



和歌

見よ人をもたむとてはなれり  
あつ乃ちりなん能らそはつと

葛蒲を

ほくくくくくくくくくくくく  
あつ乃ちりなん能らそはつと

本歌を

小車のにほひはつとてはなれり  
あまのこもはつとてはなれり

藤を

あまの野のなほはつとてはなれり  
つはつとてはなれり

本歌

秋の夜もはつとてはなれり  
つはつとてはなれり

落松

中書

花とてはつとてはなれり  
つはつとてはなれり

本歌を

つはつとてはなれり  
つはつとてはなれり



Amesbury 2000-2001

古きよき神の可敬交合敬起しをいふ  
あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
きつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
なりとも *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
一首 *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
新 *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
る *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
*Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*

Amesbury 2000-2001

あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*  
是を *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*

敬起し

あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*

あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*

あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*

敬起し

あつたあ *Amesbury* *Amesbury* *Amesbury*











大槩註之

前立相在判

和詩秘密相承各々

和歌之式家々口傳髓腦不遺故  
舉焉是以世人徒知其名而未見  
其書者亦夥矣今此集總存十一  
於千百安得盡諸家之秘蘊也吾  
非具眼者不能辨其真與偽也然  
學者玩其文邈其時以推明之則  
真與偽不待辨說而自得焉語句



之重複文字之謬誤一從舊本而  
己是吾之所不加一私于其間也  
司名和詩古語深秘抄壽于梓云

元祿十五年 孟春日

原形

出雲寺和泉掾開板

江戸田中格面是町目 同店



之章複文字之謬誤一從舊本而  
己是吾之所不加一私于其間也  
司名和詩古語深秘抄壽于梓云

元禄十五年 孟春日

原形

出雲寺和泉掾開板

江戸日本橋西町目 同店

Handwritten notes and stamps on a triangular slip of paper, including the characters '山田' and '和泉'.



